

## 平成21年度事業計画

当財団が、明治41年（1908年）に『癌克服をもって人類の福祉に貢献する』という高い理想を掲げて発足してから、昨年で100年の大きな節目の年を迎えた。設立当時、わが国では伝染病対策が中心で国の支援がない中で、困難な民間の募金活動を続けた。ようやく昭和9年に日本最初のがん専門研究所と病院を大塚の地に創設した。以来、戦災も乗り越え、民間組織でありながら、常に最高のレベルで日本のがん研究とがん診療を牽引してきたことを、われわれは今、喜びと誇りを持って振り返りながら、設立2世紀目という新たな一步を踏み出している。長年大塚の地で培われた輝かしい数々の実績を踏まえ、平成17年3月に臨海副都心有明への全面移転後5年目を迎え、研究所、病院とも高い評価を受けるに至っている。研究部門、臨床研究部門とも最新の最先端機能を備えた施設として大いなる発展を期し、更に加速させる。

この間に、がんの生化学と遺伝子研究は著しく発展し、近年では、基礎研究の成果が目に見える形で診断と治療に生かされるようになってきた。日本人に多い胃がんも減少してきており、当財団の理想はやや実現されつつあると言える。しかしながら、超高齢化社会を迎えて、がん死はますます増加している。当財団の活動には、ますます多くの期待と任務が課せられている。

21年度の当会の研究・臨床研究体制は、以下のとおりである。

1. 本年度も、研究所は、がんの発生要因とそのリスク、発がんの機序およびがん細胞組織の特性を一層解明し、がんの診断、治療および予防に繋げることに力をそそぐ。癌化学療法センターは、それらの研究から明らかにされる分子標的を中心に、新薬の開発とトランスレーショナル リサーチ（橋渡し研究）を推進する。

2. 臨床研究を推進している有明病院では、国や関係団体からの科学研究費・がん研究助成金等の獲得に力を入れ、研究部門と連携した共同研究の推進、個別化治療確立のための臨床研究の充実、ヒトゲノム遺伝子研究の推進、標準治療法の確立等、臨床部門での研究体制を強化していく。診療面では、がん診療を中心とした全人的ケア、チーム医療によるがん疾患への対応、アメニティーの充実、および地域医療への貢献、を基本方針として活動する。高度の医療提供への国民の要望は高まっているが、国の財政逼迫の折から、医療費抑制政策が更に強化されている。質の評価にはなじまない保険医療システムの中で、いかに高度の医療とサービスを実現していくか。当病院は、この矛盾を含んだ問題の解決の為に、常に理想的であると共に現実的な立場に立ち、最大限の努力を

していく。

3. 当財団では、数年前から、ゲノムセンターを中心に、研究所、病院、癌化学療法センターが協力して、プロジェクト研究「個別化がん医療の完成」を進めてきている。個々の患者の体質とそれがんの個性を明らかにした上で、患者一人ひとりにとって最善の治療法を選択するシステムを創りあげ実践しようとするものである。すでに副作用の予知に繋がる重要な遺伝子多型を明らかにするという大きな成果が挙げられているが、さらに化学療法剤の効果予測に関しても、臨床試験が行なわれ、その実現が目前となっている。当財団は、本年度もこうしたがん個別化医療実現に向けた研究を強力に推進する。

現在、わが国におけるがんによる死亡率は第一位となっており、当病院の診療を希望する患者さんは多数で、病院の評判はすこぶる高く、患者さんが日本中から集まり、溢れるばかりとなっている。当病院の先進的医療体制は、文部科学省のがんプロフェッショナル養成プランや厚生労働省のがん対策基本法のなかに強く反映されている。そのようながん診療体制を実践している施設として評価され、昨年9月には法人として初めて朝日がん大賞も受賞した。移転後の4年間で、社会的評価が高まるにつれて診療実績もあがり、事業収入は順調に伸びている。因みに、2008年の総手術数は6,049件、入院患者総数は229,084人、外来患者数は381,147人であった。

また、研究部門は国からいただく一部の補助金以外、研究成果から生まれたインターフェロン等の特許収入や、研究各部門における研究に対する補助金、その他個人的な研究費獲得などにより、当会には経済的負担をかけずに先進的な活動を続けている。

しかしながら、ここにおいて大変な困難な状況が生じた。有明移転のため、当会は多額の投資をしたが、大部分を借入金で賄った。昨年度になり、この借入金の返済がピークになる2009年度からの5年間に借入金返済資金に、相当な額の不足が生じる見通しが明らかとなった。その主たる原因は、有明計画当時、大塚土地売却時の価格の大幅な下落、医療費改定（7：1看護体制）の実施準備に伴う人件費増、いわゆるがん難民と称される終末期直前の患者さんへの積極的な対応も経費増、世界に冠たるとされる国民皆保険制度が、医療経済としてはがん医療の進歩に十分対応出来ていないということが根底にある。我々が理想を掲げながら努力してもなお、有明移転に伴う返済計画を支えきれないのが現実である。しかしわれわれは、銀行団の深いご理解の下、当会あげて収支改善に努めるとともに、「特別募金」を立ち上げ、安定した財政基盤の確立に全力を傾注する。

当会は、現時点では財務諸表が適正化されたものの19年度および過年度決算において不適切な処理を行い、コンプライアンスに反する行為によって、多大なご迷惑を社会・関係者におかけした。今後、既に公表した再発の防止策を踏まえ、ガバナンスの強化、コンプライアンス推進等に努めて、信頼の回復に全力を上げていく。

平成21年度は有明における当会の事業発展の節目とすべく、全職員の力を結集して、経済基盤の安定への道筋をつけ、がん克服の更なる貢献を図ることを決意する。

## 研 究 所

ポストゲノム時代における先端的技術を駆使して、癌の本態解明を目指した基礎生物学的研究を強力に推し進める。一方、臨床との緊密な協力関係の上に立って、ヒトがんの特性と個性を解明し、基礎生物学で得られた成果を、ヒトがんの予防・診断・治療に応用するための研究も積極的に行う。

以下、各研究部の研究計画の概要を示す。

### 生 化 学 部

1. TGF- $\beta$  /BMP シグナルと癌, 癌転移
2. TGF- $\beta$  /BMP シグナルと幹細胞分化, 骨芽細胞分化
3. TGF- $\beta$  シグナルを制御する新規薬剤の作用機序の解明と臨床応用
4. インビボイメージングを用いた癌転移の分子機構の解析

### 細胞生物部

1. 遺伝子変換マウスを用いたヒト発がん機構の解明
  - a. WT シグナルと発癌 (APC、 $\beta$  カテニン、WT、Frizzled 遺伝子)
  - b. SHH シグナルと発癌
  - c. DNA 複製・修復異常と発癌 (セパレーズ、DNA ヘリケースファミリー)
2. マウス遺伝学を用いた発癌研究
  - a. 消化管発癌を抑制する遺伝子群の単離・同定
  - b. 個体内での遺伝子変異誘導の制御メカニズム解析

### 病 理 部

1. 形態とゲノム情報の統合の上に立つ癌の悪性度診断
2. 放射線抗癌剤の効果判定の病理学
3. 内視鏡採取標本、縮小手術標本の断端診断学
4. シグナル伝達系と組織像をつなぐシステム病理学の試み
5. 胃癌, 大腸癌, 肺癌など全臓器の癌における癌の縮小手術の適応条件
6. 子宮頸部異形性のリスク評価
7. Werner 症候群, HNPCC など高発がん要因の研究
8. 癌研個別化医療実現プロジェクトへの参画

## 遺伝子診断研究部

1. 乳癌発生に関する新規遺伝子の同定と機能解析
2. BRCA2 結合分子の同定とその機能解析
3. ストレス応答性細胞死誘導機構における BRCA2 の機能解析
4. 網羅的遺伝子発現解析による乳癌の分子遺伝学的特徴の解析

## 物 理 部

1. 放射線治療線量の標準化と質的保証
2. モンテカルロ法による高精度線量計算と治療計画システムの開発
3. 前立腺がんの I-125 永久挿入治療のリアルタイム生体内線量測定に基づく線量ガイド術中計画システムの開発
4. 組織内照射における in vivo 線量実測による照射精度の研究
5. IMRT, IGRT の品質保証に関する研究
6. 医学物理士教育に関する研究

## 発がん研究部

1. マウスレトロウイルス挿入変異システムを用いた発がん分子機構の解明
2. 血液・骨軟部腫瘍におけるキメラ型転写因子の機能解析
3. Evi9/BCL11A の機能解析
4. 悪性骨軟部腫瘍の発生におけるゲノム異常の解析
5. Hox 及び Meis による転写制御機構の解析
6. 染色体転座モデルマウスの開発

## エピジェネシス発がん研究部

1. 肝発がんとメチル化による不活性化遺伝子の機能解析
2. DNA メチル化の診断応用
3. エピジェネティックな遺伝子不活性化の機序

## 蛋白創製研究部

1. 機能性人工タンパク質の創製
  - a. 人工シグナルタンパク質分子の創製
  - b. 無機結晶成長制御人工タンパク質の創製
  - c. 人工タンパク質を用いた免疫原性増強手法の開発
  - d. 無機材料を機能化する人工タンパク質の創製

## 2. 生命システムの構築と進化の原理の解明

### 実験病理部

1. 染色体の構築分子の解明
  - a. セントロメアの分子構造
2. 染色体動態制御機構の解明
  - a. スピンドルと動原体の相互作用
  - b. 分裂期キナーゼの生理機能と発癌への関与

### がんゲノム研究部

1. 個別化医療実現のための生物情報研究
  - a. 日本人癌関連統合データベースの個別化医療に向けての応用研究
  - b. 超次元 OMICS データに対する情報解析技術の開発
  - c. データマイニングとテキストマイニングを融合した情報解析技術の開発とがん関連遺伝子探索への応用
2. 遺伝子発現情報に基づく治療効果予測システムの開発
3. ゲノム情報に基づく副作用予測システムの開発

### がん生物部

1. 細胞老化による癌抑制機構の解明
  - a. INK4a/ARF 遺伝子座による発癌制御
  - b. 細胞老化の不可逆性
2. 生体内分子イメージングによる発癌防御機構の解明
  - c. 癌抑制遺伝子発現のインビボ・イメージング

## 癌化学療法センター

当センターは、がんの特異的な分子標的の機能を抑制する新しい抗がん剤の開発、有効で安全な治療法の開発、薬剤感受性と耐性、副作用等がん化学療法に関する基礎的、臨床的研究を行う。また、がんの遺伝子治療法の基礎的研究、抗がん剤の分子薬理作用研究ならびにがん化学療法関連ゲノム、プロテオーム研究を行う。他方、国際がん化学療法シンポジウムの開催、日本がん分子標的治療学会の運営、抗悪性腫瘍薬開発フォーラムの開催、国内外の化学療法に関する情報の交換を行う。

各部門における事業概要は次のとおりである。

#### 基礎研究部

1. がんの薬剤耐性機構と耐性克服薬の研究
2. がん治療の分子標的としての生存シグナル解析
3. 血小板凝集促進因子 Aggrus を介したがん転移阻害剤の開発研究
4. 幹細胞様がん細胞の同定とその制御機構の研究

#### 分子薬理部

1. がん細胞インフォーマティクスに基づく抗がん剤の分子薬理研究
2. 新規抗がん剤の探索と薬効評価
3. がん化学療法に関するゲノム分子薬理研究

#### 分子生物治療研究部

1. 細胞不死化・細胞死の分子機構を標的としたがん治療法の開発
2. がん細胞のテロメア動態と制御因子の基礎研究
3. 内分泌療法耐性ががんの克服を目指した基礎研究
4. 脂質代謝を標的としたがん治療法の基礎研究

#### 遺伝子治療研究室

1. がん化学療法の有効性と安全性を高めるための耐性遺伝子療法の研究と開発（臨床部、化学療法科との共同研究）
2. ヒト造血幹細胞の分化・増殖と機能に関与する遺伝子の研究

#### ゲノム研究部

1. 遺伝子発現解析による分子標的薬剤の反応性診断研究
2. がん微小環境選択的な分子標的治療法の研究

#### 臨床部

1. リンパ腫、骨髄腫等造血器腫瘍の分子標的治療および抗体療法に関する研究
2. 乳がん、消化器がんなど固形がんに対する新しい治療戦略の研究
3. がんの化学療法と内分泌療法の併用に関する研究
4. 自己造血幹細胞併用による超大量化学療法の研究
5. バイオイメージングによるがん細胞の観察

6. 骨転移の機序とその治療に関する研究
7. 細胞死誘導とその耐性機序に関する研究
8. 細胞療法実施のための準備研究(細胞療法研究室)

#### 制癌剤情報室

1. 日米両国のがん化学療法に関する情報の収集と交換
2. 国際癌化学療法シンポジウムの実施
3. 日本がん分子標的治療学会の運営
4. 抗悪性腫瘍薬開発フォーラムの開催

## ゲノムセンター

ゲノムセンターでは 21 世紀におけるがんの克服を目的として、ゲノム科学技術を駆使することにより「患者の個性」や「がんの個性」を反映する遺伝情報を同定し、がん患者のオーダーメイド医療の実現を目指す。また、「高機能抗体創製技術開発プロジェクト」として、次世代の個別化医療に応用しうる抗体を創製するために、有効な高機能医薬抗体作製システムの開発を目指す。さらに、基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発の先導研究として、「抗がん剤治療を革新する有効性診断技術の開発」を行う。

#### (1) 新機能抗体創製プロジェクト

##### 臨床研究グループ

1. がんゲノムプロジェクトにおける臨床計画の立案
2. 臨床材料の選定、採取
3. 臨床情報、病理学的情報、薬理情報等の選定、収集

##### 抗体機能検定グループ

1. マウス発牛工学を用いた有効な抗体作製技術の開発
2. 組織アレイによる系統的な機能抗体の評価システムの確立
3. 創製した抗体の系統的機能評価

##### 乳腺ゲノム解析グループ

1. 新規抗体標的候補分子の探索
2. 乳癌化学療法や放射線療法の副作用を規定する遺伝子および遺伝子多型の同定および

び予測システムの構築

3. 乳癌感受性遺伝子多型および遺伝子の同定
4. 発現解析による乳癌化学療法感受性予測システムの構築
5. トランスフェクションアレイを用いた乳癌化学療法感受性遺伝子機能ネットワークの解析

#### プロテオミクス解析グループ

1. 抗体標的分子としてのがん特異的活性化酵素探索システムの開発
2. 抗体標的分子としてのがん特異的複合体検出システムの開発
3. 質量分析装置を用いた、新規診断マーカーおよびシステムの開発

#### 標的分子探索グループ

1. エクソンアレイを用いた医薬抗体の新規標的候補分子の探索
2. マッピングアレイを応用したゲノム DNA 一次構造情報の収集
3. 階層的な分子情報の高次利用による治療抗体標的分子の探索

#### 情報解析グループ

1. 癌患者および癌組織の遺伝学的情報のデータベース化
2. 癌患者の各種臨床病理学的情報のデータベース化
3. 高機能抗体の候補分子探索のための新規アルゴリズム開発
4. 新規情報解析システムを用いたがん患者の治療感受性や副作用を規定する遺伝子の同定

#### (2) 薬剤反応性プロジェクト

##### 臨床研究グループ

1. がんゲノムプロジェクトにおける新薬、治験例を中心とした臨床研究計画の立案
2. 臨床材料の選定、採取
3. 臨床情報、病理学的情報、薬理情報等の選定、収集

##### 多型解析グループ

1. SNPs 解析による化学療法剤感受性および副作用の発現強度を規定する遺伝子および遺伝子多型の同定
2. SNPs 解析による放射線感受性および副作用の発現強度を規定する遺伝子および遺伝子多型の同定

##### 発現解析グループ

1. 分子標的薬剤などの新薬を対象とした、遺伝子発現解析による薬剤反応性予測遺伝子

- の同定
2. 薬剤反応性予測診断システムの構築

## 有明病院

診療部門における計画の根幹をなすものは癌の早期発見、機能温存、集学治療それに難治癌対策である。いずれも重要な項目であり、最高、最善の医療を求めて組織を挙げて努力する。

病院全体の本年度の重要課題は、運営の効率化・合理化・学術レベルの向上、人材の確保・育成、感染症対策を含めた環境整備、職員の勤務態様の改善とモラルの向上などである。有明計画の進展と相俟って、積極的に進めてゆく。

事業計画の内容を項目別に列挙すると、以下のとおりである。

1. 今後5年間で目指すべきゴール
  1. 世界を代表する癌専門病院として国際化を推進する
  2. 積極的に情報公開を進め癌研有明病院の **visibility** を上げる
  3. 患者中心の医療実践と支援と体制の確立
  4. 病院組織の改善
  5. 魅力ある職場づくり
  6. 創造的な医療の開発
  7. 医療制度の変動に対応した効率的な病院経営
2. 同施行の細目
  1. 外国人患者の積極的受け入れ
  2. 医師・コメディカルスタッフの国際交流の促進
  3. 広報委員会の活動強化
  4. 医療支援センターの基盤整備
  5. 東京都がん診療連携拠点病院としての役割の充実
  6. 速やかな意思決定を行うための組織整備
  7. 7対1看護の実施
  8. 待遇改善と人材の確保
  9. 病院と研究所の共同研究の推進
  10. 病院機能がフル稼働できる環境の整備
  11. 経営システムの完成とD P C導入による情報解析型経営
  12. 募金活動の充実

### 3. 具体的な実施計画項目

- (1) がん医療中心の総合病院
- (2) 三位一体・理念・基本方針を实践
- (3) 臓器別チーム医療  
センター方式、がん総合治療部、TB、CB、消化器センター、レディースセンター、呼吸器センター、前立腺センター、外来治療センター、遺伝子診療センター、新薬開発臨床センター、ゲノムセンター、健診センター、医療支援センター、フォトセンター、インターナショナルセンター
- (4) 患者中心の医療  
TumorBoard・CancerBoard、各センターの外来配置、ICU、HCU、アメニティー
- (5) 先端医療 — ATC、PET、放射線治療、OP 室、遺伝子診断部、遺伝子診療センター、ゲノムセンター、新薬開発臨床センター
- (6) 緩和ケア
- (7) 医療連携室、医療支援センター、開放病床の推進
- (8) 災害拠点病院 — 救急は腫瘍救急を中心に
- (9) QI 委員会、リスクマネジメント
- (10) 教育制度：レジデント教育
  - ・ 700 床(一般 50~100 床)
  - ・ 個室率 33.3%(特:25、緩和 25、個:146)
  - HC:28、ICU:18、HCU:16
- (11) 画像診断の向上と効率化
- (12) 緩和ケア(ペイン・クリニック、精神医学的サポート、緩和ケアチーム)の充実
- (13) QOL(quality of life)を重視した新しい癌治療(機能温存、縮小手術、集学治療)法の研究開発
- (14) 難治癌(肝・胆・膵など)に対する集学的治療(放射線、温熱、動注、抗癌剤など)法の研究開発
- (15) 進行癌に対するneoadjuvant chemotherapy、拡大手術、頭蓋底外科、再建外科などの実施
- (16) 専門領域を超えた臓器(患者)指向性の診療体制の拡充
- (17) RIによる診断の向上
- (18) 健診センターの充実
- (19) 診療の効率化のための、外来治療室の充実
- (20) 薬剤管理、IVH 製剤化の充実
- (21) 外来待ち時間短縮や一部予約制導入などのサービス向上

- (22) 診断確定までの時間の短縮
- (23) 手術待ち時間の短縮
- (24) 難治がんへの積極的挑戦
- (25) がん専門病院としての機能強化のための人材育成、医療機器の充実、施設設備の推進
- (26) 学術レベルの向上のための学術講演会、発表会、CPC の定期開催、カンファレンスの充実などの積極的実施
- (27) 教育研修病院としてのシステムおよびカリキュラムの充実
- (28) 癌化学療法実施体制の再整理と新 GCP に対応した新薬の開発支援体制の確立
- (29) 病診連携にもとづく地域医療の支援
- (30) 適正および安全な医療を行うための体制の整備と教育の徹底
- (31) 各種疾患におけるデータ・ベースの整備
- (32) 癌登録とフォローアップ体制の強化
- (33) 業績集、診療実績の総括と公表
- (34) 電子カルテ導入
- (35) NST・栄養サポートチーム
- (36) ボランティア活動の充実
- (37) **Balanced Score Card** システムの検討
- (38) がんプロフェッショナル養成プランの受入れ
- (39) がん診療連携拠点病院の機能強化
- (40) DPC導入に向けての検討
- (41) 医療情報センターの立ち上げ
- (42) 臨床研究センターの設置と各科横断的プロジェクト研究の推進
- (43) 都道府県がん診療連携拠点病院機能強化
- (44) 癌研有明友の会との連携
- (45) その他

## 【 疾患別癌診療部門 】

### 呼吸器センター

#### ○内科・外科共同

1. 放射線科と共同しての肺癌の集学的治療
2. CTによる肺野型微小肺癌の発見と確定診断法の確立
3. すりガラス様陰影を呈する病変の経過観察方針の確立
4. 大細胞神経内分泌肺癌の術前診断方法の確立
5. 大細胞神経内分泌肺癌の治療法の研究
6. プラチナ製剤を含む術後補助療法に関する安全性の研究
7. 縦隔リンパ節転移に対するEBUSによる低侵襲診断の確立
8. 研究所と連携した肺癌の遺伝子研究
9. 悪性中皮腫切除可能例に関する、集学的治療
10. 切除可能胸壁浸潤肺癌に対する集学的治療
11. 病理病期 I 期(T1>2cm)非小細胞肺癌に対する術後化学療法の確立

#### ○呼吸器内科

1. 肺癌治療における標準的化学療法の確立のための臨床研究の充実
2. 適切な化学療法を行うための抗癌剤の代謝能および薬物動態の検討
3. 肺癌化学療法の個別化治療に向けた基礎的検討
4. イレッサ耐性症例に対する治療法の確立を目指した臨床研究

#### ○呼吸器外科

1. 肺野型微小肺癌に対する根治的縮小手術法の確立と標準化
2. 局所進行肺癌に対する、集学的治療としての外科療法の検討
3. 術中胸腔洗浄液の播種と関連する遺伝子学的の研究
4. 異時多発肺癌に対する外科療法
5. 転移性肺腫瘍に対する原発巣の特性を加味した外科療法
6. 胸腔鏡下肺切除の適正な適応と、安全性の研究
7. 研究所と連携したイメージング技術の臨床応用(臨床研究センター)

### 消化器センター

#### ○消化器内科

(消化管グループ)

1. 内視鏡的全層切除の開発 ペンタックス社と共同開発 進行中
2. NBI拡大観察所見と組織像の立体構築 論文作成中

3. 早期胃がん範囲診断困難例におけるNBI観察
4. 微小癌におけるNBI所見と組織像の対比
5. 早期胃がんのESDにおける未分化型癌適応拡大と増殖帯進展に関する研究
6. 早期胃がんのESDにおける組織混合型の取り扱い
7. ピロリ菌除菌による微小胃癌発見能の向上性の検討
8. 食道異形上皮における拡大内視鏡観察と組織像
9. 胃癌術後の通過障害に対する、漢方薬(茯苓飲)による内科的治療法の検討
10. 抗癌剤の副作用による上下肢の知覚異常(しびれ)に対する、内科的治療法の確立
11. 栄養サポートチーム(NST)による、頭頸部癌の治療成績向上の検討
12. 抗癌剤感受性試験

(肝・胆・膵)

1. 膵癌、胆道癌、肝癌の化学療法、IVR の多施設臨床試験
2. 膵癌の免疫療法併用化学療法の臨床試験
3. 切除不能肝細胞癌に対するエピルビシンまたはドキソルビシン/リピオドールを用いた TACE の第Ⅱ相臨床試験(日本・韓国共同試験)
4. 切除不能肝細胞癌に対する DSM を用いた TACE の有効性の検討
5. 転移性肝癌に対する DSM を用いた TACE の有効性の検討
6. 大腸癌肝転移に対する低容量 CDDP+5FU 動注化学療法の有効性の検討

## ○消化器外科

・総論

1. 消化器癌の安全で迅速な診断システムの構築
2. 患者の多様性に応じた集学的治療システムの構築
3. 消化器癌再発の病態解析と対策
4. 消化器癌に於ける緩和医療の活用
5. 消化器外科腫瘍外科医の育成
6. 腹腔鏡下手術の適応拡大
7. 消化器癌における PET 検査の意義の解析

(上部消化管)

食道癌

1. 食道癌における鏡視下手術の導入
2. 術前化学療法の有効性に関する研究
3. マイクロアレイなどを用いた放射線化学療法効果予測の確立
4. 早期食道癌に対するより EMR+CRT などの低侵襲な治療法の確立
5. 食道癌根治的放射線化学療法後のサルベージ手術の意義と術式の検討

## 6. PET-CT による化学療法の効果判定の研究

### 胃 癌

1. 腹腔鏡下手術と内視鏡治療の併用による新しい胃癌治療法 (Laparoscope and Endoscope Combination Surgery) の開発
2. 腹腔鏡下胃手術の普及のためのトレーニングシステムの開発
3. 低侵襲手術としての胃局所切除の検討
4. 腹腔鏡下手術における消化器再建法の検討
5. 高度進行胃癌、特に CY(+) 例に対する周術期化学療法の開発
6. 早期胃癌の機能温存手術における機能解析
7. 転移の可視に関する研究 (研究所と共同研究)

### (下部消化管)

#### 大腸癌

1. 直腸癌に対する機能温存手術の確立と術後 QOL の評価
2. 大腸癌の肝転移の危険因子と予防法の検討 (ゲノム関連)
3. 直腸癌に対する術前放射線化学療法の効果予測
4. 大腸癌における腹腔鏡手術の適応拡大
5. 大腸早期癌の増殖と進展に関するゲノム解析
6. 進行再発大腸癌に対する手術を含めた集学的治療の研究
7. 大腸術後 Surgical site infection の予防法の確立
8. 大腸癌診療における PET の意義に関する検討

### (肝・胆・膵)

#### 主要項目

1. 肝胆膵癌に対する手術適応拡大と症例数の増加
2. 肝胆膵癌に対する手術安全性の向上
3. 肝胆膵癌に対する低侵襲手術の導入：先進医療の実施

#### 個別項目

1. 膵切除の際の膵離断法と合併症に関する研究
2. 肝腫瘍の針生検による鑑別診断のためのゲノム解析研究
3. 胆道膵癌の進展範囲判定における MDCT の意義に関する研究
4. 腹腔鏡補助下肝膵切除の導入
5. 血管合併切除を伴う肝切除：当院における新しい術式の開発
6. 膵頭十二指腸切除後の感染性合併症発生のリスク因子の探索
7. 肝内胆管癌に対する切除適応と再発後の至適治療法の探索
8. 大腸癌肝転移に対する術後補助化学療法＋肝切除に関する研究

9. 大腸癌肝転移に対する術前化学療法に関する研究
10. 膵悪性腫瘍に対する外科切除後補助化学療法の有用性に関する研究
11. 胆道悪性腫瘍に対する術後補助化学療法に関する研究

## レディースセンター

### ○乳腺科

#### ・研究計画

1. 非照射乳房温存療法の長期予後の解明と同側乳房内局所再発症例の検討
2. 乳房温存療法における切除標本の断端検索に関する簡便法を研究所生化学部と富士フィルムとで共同研究する
3. センチネルリンパ節生検の安全性に関する臨床比較試験への積極的参加
4. 乳管内病変診断における OCT (Optical Coherence Tomography) の有用性についての検討
5. 薬剤の選択に関する遺伝子診断の臨床応用と術前化学療法を用いた確認試験の継続 (遺伝子パクリ試験 = GENESIS 試験)
6. 脂肪幹細胞移植による非照射温存療法後の乳房変形に対する乳房形成術の有用性に関する検討
7. アロマターゼ阻害剤アナストロゾールの至適投与期間、長期投与による有害事象を探る比較試験の実施 (NSASBC05 試験) と全国への試験参加への呼びかけ
8. 術前化学療法症例における画像診断と組織との対比より、適切な効果判定の方法を探る
9. アロマターゼ阻害剤による骨密度低下に対するゾレドロネート投与の有効性評価
10. 内視鏡、ライト付鉤等の道具を用いた美容に配慮した手術法の確立に関する研究
11. 新規導入の超音波機器を用いたエラストグラフィと RVS 法に関する研究計画の立案

#### ・診療システム改善計画

1. 休日、夜間などの業務を当番に完全委託できるシステムを確立し、かつ患者が不安にならないためのチーム一体化した効率的な診療をめざす
2. 再発患者の薬物療法へのスムーズな移行、PD 患者への在宅医療、緩和ケアへのスムーズな移行のための指導パンフレットの作成
3. 乳癌認定看護師に外来診療と入院診療との橋渡しとしての役割を与え、具体的理想的な業務内容を確立する
4. ベッドの有効利用とドレーン在宅自己管理法の活用を推進
5. 乳腺外来のブース拡充と全員参加による待たせない効率的な外来運営を図る
6. 地方で乳腺専門医を目指す若い医師のための短期研修コースを年 2 回実施

7. 患者会のボランティアグループ(ABCSS)による乳癌患者支援を拡大、定着をめざす

## ○婦人科

### ・診療上の課題

1. レディースセンター婦人科外来のスムーズな運営  
再発がんの早期診断と早期治療を目指す。  
治療適応を良く見極め、適切な緩和ケアができるように支援する。
2. 婦人科がんの手術数を増加維持して日本一にする  
1ヶ月の手術件数 70-80 件、がんの根治手術 30-40 件をめざす
3. 病院機能評価に準拠した病棟／外来業務を確実に継続実施する

### ・研究上の課題

#### (子宮頸がん)

1. 子宮頸がんにたいする化学放射線併用療法の Phase II 臨床試験の推進  
私達が決定した推奨投与量を(weekly CDDP30,Taxol50mg/m2)を用いて多施設共同前向き臨床試験を実施する(JACCRO の支援による)。
2. 子宮頸がん IB1 期で、長径 2cm以上の症例に対する縮小広汎手術の feasibility 研究を推進する。目標 20 例に対して、16 例に施行した。今年度に中間的まとめを行い発表する。
3. 子宮頸部扁平上皮癌 Ib-IIa 期でリンパ節転移陽性症例に対する術後補助化学療法  
塩酸イリノテカン(CPT-11)+ネダプラチン(NDP)第 2 相試験  
JGOG(日本婦人科がん化学療法共同研究機構)で、研究コンセプトが承認され、プロトコール作成中であり、この秋に実施を目指している。
4. 子宮頸がん IB2 期, II 期を対象とした術前化学療法塩酸イリノテカン(CPT-11) +ネダプラチン(NDP)第 2 相試験の成績を 2009 年 8 月までにまとめる。  
続いて、扁平上皮癌にはタキソール+カルボプラチン、非扁平上皮癌にはドセタキセル+カルボプラチンを用いた術前化学療法の有効性を多施設で進展させていく。

#### (子宮体がん)

1. 小さな子宮体がんを早期に診断し、その病態像から、より確実な早期診断方法を確立する。
2. 進行体がんに対する治療戦略:標準手術ができない(I)局所進行例、(II)膨大動脈リンパ節転移例、(III)遠隔転移例の 3 種の病態別の至適治療戦略の開発

#### (卵巣がん)

1. 進行卵巣がんに対する治療戦略:NAC→IDS の有用性の feasibility study:プロトコ

ル作成中

## 2. 卵巣がんの三次元培養法による抗がん剤感受性試験の臨床応用

### 前立腺センター

#### ・診療のテーマ

1. 個々の患者の病態に最適と考えられる、**patient-oriented** の医療の実施
2. 患者の生活の質ならびに治療選択権に配慮したやさしい医療の提供
3. コメディカルとの協調による患者サービスの徹底

#### ・研究テーマ

1. 限局性前立腺癌における根治的前立腺摘除術後の病理学的病期予測と術後再発予測と術後再発予測因子の検討(多施設共同研究)
2. 未治療中間リスク限局性前立腺癌に対する NHT+ヨウ素 125 密封小線源永久挿入療法 +AHT と NHT+ヨウ素 125 密封小線源永久挿入療法とのランダム化比較試験(多施設共同研究)
3. ホルモン抵抗性前立腺癌に対する **docetaxel** 化学療法の第 2 相試験
4. 前立腺限局癌に対する各種治療法と縦断的 **QOL** 解析
5. 前立腺癌が産生する産生する血中テストステロン抑制物質の検討
6. 前立腺全摘術時における簡単な鼠径ヘルニア防止手術の開発
7. 前立腺癌に対する **LHRH** アンタゴニストの第 2 相試験(全国共同研究)
8. アンドロゲン非依存性前立腺癌に対する抱合型エストロゲン製剤 (プレマリン) のパイロット試験

### 頭 頸 科

#### ・基本方針

1. 患者中心で、かつ最高水準の頭頸部がん治療の開発と実践
2. 本邦における治療の最終病院として、他施設との連携の重視(可能な限り治療、相談の受け入れとケア)
3. 頭頸部癌治療医の育成機関としての役割を果たしてゆく(部内のみならず、外に向かっても更に開かれた部門として頭頸部治療医を育成)
4. 国内外との積極的な交流
5. チーム医療による頭頸部がん治療の新しい可能性を常に模索してゆく

#### ・研究課題

1. 頭頸部癌治療の標準化
2. 頭頸部がんに対する機能温存治療の拡大

3. 咽頭癌の早期発見と内視鏡下切除の推進、適応の検討
4. 手術手技の習得のための教育的手法の検討
5. 頭頸部再建術の標準化のこころみ
6. 頭頸部癌術後の QOL の検討
7. 頭頸部癌転移要因の解析
8. 無症候性微小乳頭癌の非手術経過観察:prospective study の継続
9. 甲状腺乳頭癌に対する TSH 抑制療法の効果についての RCT:2008 年末時点でデータ集計
10. 甲状腺乳頭癌に対するリンパ節郭清、予防的側頸部郭清の prospective study のまとめ
11. 甲状腺乳頭癌の腺外浸潤の診断、臨床的定義、予後因子としての意義についての検討
12. 甲状腺乳頭癌の独自の癌死危険度分類に基づく治療方針の確定とデータの蓄積
13. 甲状腺乳頭癌高危険度郡症例に対する予防的放射性ヨード治療の効能評価
14. 甲状腺濾胞癌、遠隔転移の危険因子の解析とそれに基づく治療方針の確定
15. 有症候性微小乳頭癌の予後因子解析と治療方針の確定
16. 甲状腺未分化癌の prognostic index に基づく治療の結果と放射線化学療法の評価
17. 甲状腺低分化癌の臨床と病理組織学的定義の問題点の検討
18. 甲状腺手術における術中神経モニタリングの効用評価
19. 甲状腺癌骨転移における骨代謝マーカーの有用性の評価
20. 甲状腺癌骨転移に対するゾメタ治療の効果についての検討

## 整形外科

### ・診療テーマ

1. 患者中心の安全な治療法の確立
2. 迅速な診断治療システムの確立
3. 海外を含む他施設との連携強化
4. 他病院小児科との連携強化

### ・研究テーマ

1. 切除縁評価法の再評価
2. 再発腫瘍の至適切除範囲
3. 遺伝子解析による肉腫の悪性度分類
4. 浸潤性発育を示す肉腫の遺伝子診断と治療法の確立
5. 骨欠損充填剤の多施設共同研究
6. 軟部肉腫に対する術前化学療法の意義(他施設共同)

7. 骨肉腫に対する化学療法（他施設共同）
8. 上肢発生軟部肉腫広範切除後の再建法

## 泌尿器科

### ・診療テーマ

1. 個々の患者の病態に最適と考えられる、patient-oriented の医療の実施
2. 患者の生活の質ならびに治療選択権に配慮した優しい医療の提供
3. コメディカルとの協調による患者サービスの徹底

### ・研究テーマ

1. 腎細胞癌の組織型と染色体解析
2. 40歳以下の若年性腎癌の臨床病理学的検討
3. 膀胱全摘後の尿路変向法と縦断的 QOL 解析
4. 浸潤性膀胱癌に対する en bloc radical cystectomy と術後補助化学療法による集学的治療の検討
5. 前化学療法抵抗性進行尿路上皮癌に対する前化学療法抵抗性進行尿路上皮癌に対する taxol, gemcitabine, cisplatin 併用化学療法
6. 低用量 BCG 膀胱腔内療法の有用性に関するランダム化比較試験(多施設共同)
7. 表在性膀胱癌の術後早期再発に対する術直後単回膀胱内注入療法：  
THP と MMC による再発予防効果の比較試験

## 血液腫瘍科

### ・研究テーマ

1. 悪性リンパ腫の抗体療法の耐性機序
2. プロテオソーム/ユビキチン経路の研究
3. 癌細胞の画像による解析、新規薬剤の耐性
4. 造血器腫瘍細胞における Dlk の発現

### ・診療テーマ

1. 悪性リンパ腫の標準治療法導入
2. まれな白血病/リンパ腫の治療法の開発
3. 骨髄腫の有効性の研究

## 【 癌総合治療部門 】

## 化学療法科

### ・研究テーマ

1. 新抗癌剤の臨床研究
2. 乳癌の遺伝子治療についての研究
3. 乳癌の化学療法と遺伝子解析
4. 悪性腫瘍の骨転移と高カルシウム血症の臨床研究
5. 抗癌剤の耐性克服機序と細胞死関連蛋白の発現についての研究
6. 悪性腫瘍疾患患者におけるサイトカイン、可溶性トランスフェリン受容体、ベータ2ミクログロブリン値、新規腫瘍マーカーの測定
7. 臨床腫瘍専門医合格者を増加させる
8. 循環血中腫瘍細胞と内皮細胞の測定と意義

・診療テーマ

1. 臓器別、層別化診療の推進を行う。特に乳癌、消化器癌では大腸癌、血液では、悪性リンパ腫、骨髄腫を中心に、治療する。できるだけ外来治療を中心とする。外来治療を他施設から見学出来るようにする。
2. 各科との協力的診療の推進:特に乳癌、消化器癌では大腸癌、胃癌、食道癌、血液では慢性白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫、頭頸部腫瘍、原発不明癌を中心に診療する。
3. 分子標的治療の推進:特にハーセプチン、リツキサン、グリベック、バルケイドの治療を短期入院および外来治療を推進する。
4. まれな疾患でも末梢血幹細胞移植や大量化学療法、集学的治療を積極的に推進する。
5. 院内の化学療法全体が安全かつ効率的に行えるように積極的に診療する。
6. 原発不明癌の標準的診断と治療法の確立

## 放射線治療科

・診療テーマ

・診療上の課題＝研究課題

1. 乳房温存療法における放射線治療の検討:深吸気照射・FIF 法
2. 悪性リンパ腫の放射線治療の検討:INRT と IMRT の導入
3. 胃に対する照射法の検討
4. 体幹部肉腫の放射線治療 IMRT の導入
5. 食道癌における呼吸同期照射法の検討
6. 非小細胞性肺癌 T2N0 の呼吸同期定位照射
7. 非小細胞性肺癌の呼吸同期 IMRT ・ IGRT
8. 前立腺がんの IGRT・IMRT 金属マーカー
9. 椎体骨転移における再照射定位照射
10. 子宮頸癌の化学放射線療法日本人女性における CTV 設定の検討

## 11. 頭頸部腫瘍に対する IMRT

### ・研究テーマ：研究上の課題

1. 小線源治療に関する研究
  - a) 限局性前立腺癌に対するヨード I-125 組織内照射
  - b) Image-guided brachytherapy の研究
2. 外部照射に関する研究
  - a) 3 次元照射法の研究(肺、肝)呼吸同期照射
  - b) 食道癌、肺癌の集学的治療に関する研究
  - c) 直腸癌の術前化学放射線療法
  - d) IMRT の QA/QC
  - e) 放射線治療効果と低酸素細胞の関連性について
  - f) 新しい治療計画機器ソフトの検証

## 免疫・遺伝子治療科

### ・研究テーマ

1. 乳癌の MDR1 遺伝子治療の臨床研究
2. 遺伝子導入血液細胞における遺伝子組み込み部位および遺伝子導入クローンの消長に関する研究

### ・診療テーマ

有明病院における遺伝子治療、細胞免疫治療の臨床システムの整備

1. クリーンルーム、細胞療法室の整備
2. 移植・化学療法専門ナースの教育、育成
3. 診療ガイドラインと連携した対象症例の pick-up 体制整備
4. ワクチン療法の患者リクルート

## 【 一般診療部門 】

### 総合内科

1. 他科との連携のもと、担癌患者における以下にあげる疾患の診断・治療循環器疾患、内分泌疾患、糖尿病、水電解質、骨代謝異常
2. ベストケアプロジェクトの継続実施
3. ベストケアプロジェクト対象症例の病因の解析
4. 術前術後患者の循環器機能のチェックと管理指導
5. 化学療法前後患者の循環器機能チェックと管理指導
6. 術前術後患者の内分泌代謝機能のチェックと管理指導

7. 術前術後糖尿病患者の管理指導
8. 担がん患者に対する漢方サポート治療の推進
9. アントラサイクリン系薬剤による心筋障害とBNPの動きに関する分析
10. 薬剤性心筋障害に対するACEおよびARBを用いた治療の有効性の検討

## 一般外科

1. 癌研有明病院に通院中あるいは入院中の患者で、一般外科の範疇に入る疾患についてのコンサルテーションや、暫定的な治療を行う
2. 継続的な一般外科は基本的に行わず、近医を紹介する
3. 救急医療が本格的に稼働するまでの間、癌研有明病院周辺で発生した緊急的一般外科、切創、打撲、擦過傷などの診療にあたる
4. 癌研の職員の一般外科的な疾患について診療する

## 形成外科

### ・診療テーマ

1. 癌患者のQOL向上を目指した再建術の確立
2. 個々の患者の状況に応じたオーダーメイド医療の確立
3. 各科に対応した迅速で安全なチーム医療の確立
4. 癌研独自の高度な再建手技の確立
5. 海外を含む他施設との連携強化

### ・診療テーマ

1. 皮弁再建の術後機能評価(他施設共同)
2. 皮弁採取部の術後機能評価(他施設共同)
3. 四肢軟部悪性腫瘍再建の標準化
4. 機能的四肢再建治療の確立
5. 一期的乳房再建法の標準化
6. 自家組織乳房再建法の確立
7. 脂肪幹細胞移植による乳房変形の治療
8. 顔面神経麻痺における再建法の確立
9. リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合治療
10. MRIを用いた機能的リンパ管の同定

## 眼科

1. 眼部悪性腫瘍に対する根治が得られ、かつ整容的な治療法の検討

2. 外眼部腫瘍に対する手術・再建
3. 眼内腫瘍・転移巣に対する手術・放射線療法
4. 眼内・眼窩悪性腫瘍および頭頸部からの浸潤例に対する眼窩内容除去術後における眼窩の再建および義眼床の作製による術後の義眼装着
5. IVH 装着患者に生じる真菌性眼内炎の早期発見・治療
6. 涙器疾患に対する外科的治療
7. 頭蓋内、頭蓋底および眼窩腫瘍・浸潤例による視覚障害の早期発見・治療、Humphrey 視野計、Goldmann 視野計、Hess co-ordimeter の活用など
8. 眼内・眼窩悪性腫瘍および頭頸部からの浸潤例に対する術後の鼻涙管の再建
9. 担癌患者に対する白内障手術など、Quality of Vision への貢献

## 歯 科

1. 化学療法時の歯科疾患管理システムの確立
2. 口腔領域における放射線治療後の障害に対する治療法の開発
3. 化学療法性口内炎に対する予防ならびに治療法の検討
4. 歯科疾患に対するレーザー治療の有効性についての検討

## 緩和ケア科

1. EBM に則った本邦の症状緩和ガイドラインの作成
2. 新規オピオイド鎮痛薬の治験
3. 予防的緩和ケアの概念の構築
4. 再発・転移がんにおける症状発現時期の prospective なモニタリングと緩和ケア科の介入時期と方法による症状緩和率の検証
5. 当院における教育カリキュラムと診療ガイドラインの作成

### ・診療テーマ

1. 癌研では初の緩和ケア科による緩和ケア外来、緩和ケア病棟、緩和ケアチームの診療システムの構築と周知
2. 電子カルテによる病棟や外来との迅速なアクセスに基づいた各診療科と緩和ケア科の早い時期からの連携と円滑な緩和ケア科への移行
3. 他職種との円滑なチーム医療の遂行
4. 緩和ケアに関するレジデントや学生への教育
5. 正しい緩和ケアのあり方に関する国民への啓蒙

## 麻酔科(ペインクリニック)

1. 高質な麻酔科診療
  - 術前・術中・術後の一貫した診療、安全確保
2. 麻酔科・中央手術部の効率的運営
  - 臨床教育、人材確保、緊急症例への対応
3. ペインクリニック診療
  - 術後痛・癌性疼痛管理、緩和ケアチームとしての活動
4. 麻酔科外来診療の充実：患者数増加

## 【 中央診療部門 】

### 画像診断部

1. 卵巣悪性腫瘍の MRI による組織分類の検討
2. MRI による子宮頸癌の腫瘍径と進展度診断の確立
3. 乳房非触知石灰化病変のステレオガイド下生検の手技、診断精度の向上の検討
4. 非触知乳癌の同定と治療法に関する検討(乳腺科との共同研究)
5. 泌尿器癌の CT、MRI による組織診断および進展度診断の検討
6. 頭頸部リンパ節転移における CT・MR 診断能向上の検討
7. 癌診療における IVR の拡充
8. 積極的緩和医療における IVR の意義に関する検討

### 核医学部

#### ・診療のテーマ

1. ポジロン検査(PET および PET/CT)の推進
2. 骨転移に対するストロンチウム治療の推進(放射線治療科などと共同)
3. 再発・難治性低悪性度 B 細胞リンパ腫に対する放射免疫療法の推進 (血液腫瘍科などと共同)

#### ・臨床研究のテーマ

1. 骨転移診断法：骨シンチグラフィと FDG-PET の比較検討
2. 骨転移のスクリーニング法としての骨シンチグラフィの再評価
3. 遺伝性腫瘍のサーベイランスにおける FDG-PET の有用性(遺伝子診療センターと共同)

### 超音波検査部

#### ・診療のテーマ

1. 検査件数の増加
  2. 検査精度、客観性の維持
  3. 費用対効果の向上
- ・臨床研究のテーマ
1. 高周波探触子を用いた鎖骨下静脈カテーテル関連血栓の検討
  2. 超音波造影剤、ソナゾイドによる肝腫瘍、質的診断能の向上
  3. 乳腺、甲状腺の表在臓器の超音波ガイド下吸引細胞診の精度の向上
  4. 乳癌化学療法の効果判定における超音波検査の有用性の検討

### 内視鏡診療部

- ・診療テーマ
1. 安全で苦痛のない内視鏡検査・治療の確立
  2. 診断の向上と迅速な対応
  3. 偶発症の予防と対策の推進
  4. チーム医療の確立
- ・研究テーマ
1. 早期食道癌の診断・治療法の確立
  2. 早期胃癌の EUS 診断の精度向上に関する研究
  3. NBI,拡大内視鏡診断の向上
  4. 微小癌の診断法の確立
  5. 未分化早期胃癌における増殖帯進展の病理学的検討
  6. SM 癌に対する全層切除法の開発
  7. SM 癌におけるリンパ節転移例のゲノム解析
  8. カルチノイド腫瘍の診断と治療法の確立
  9. 大腸癌の発育進展に関するゲノム解析
  10. 大腸腫瘍の NBI、拡大観察診断の確立
  11. 大腸早期癌の内視鏡的治療後の長期経過観察の検討

### 外来治療センター(ATC)

- ・診療テーマ
1. 新規薬剤の早期導入
  2. 標準治療の安全性確立
  3. 専門看護師、専門薬剤師の研修と外部への見学によるマネジメント確立
  4. チーム医療の確立、効率化

5. ATC における服薬指導の向上
6. 看護スタッフにおける点滴確保と調査研究

### 遺伝子診療センター

1. がんの遺伝子診療および遺伝カウンセリングシステムの確立
2. 変異保有者に対する癌の予防および診療各科と連携した生涯にわたるサーベイランスに関する研究
3. 保険適用となった遺伝子検査および研究としての遺伝子診断の実施
4. 既知の範疇にはない癌多発家系における原因遺伝子の同定
5. 一般集団も含めた遺伝子に関する情報提供の窓口としての機能の充実
6. がんの遺伝に関する適切な認識の普及、教育
7. 遺伝カウンセラー、遺伝子検査担当者等の遺伝子診療関係者の人材育成

### 集中治療部

1. 集中治療部は、重症患者さんの集中治療を集中治療室(ICU/HCU)で行う為に必要な設備や人員を支援する  
集中治療室(ICU/HCU)は、中央診療部門として重症患者さんに適した入院治療を 24 時間体制で行う
2. 集中治療部設備のための指針(2002)を参考に、高度な集中治療やハイケアに必要な設備や人員を増強し充実させる。同時に、当院独自の「がん集中治療」を支援する。
3. HCU での第二次救急医療機関専用ベット 2 床の運用の維持
4. 集中治療室の整備
  - ・多臓器障害への集中治療に必要な設備や物品整備
  - ・集中治療部スタッフの数的・質的向上
  - ・集中治療部スタッフと各科担当医、ME センター等との連携強化
  - ・集中治療病床の有効利用推進(第二次救急医療機関専用ベット 2 床を含めHCU16 床・ICU8床、計24床を母数とする目標病床稼働率 70%以上の維持)
5. 集中治療部の活動
  - ・院内・院外の癌救急支援
  - ・一般救急の診療体制支援
  - ・スタットコール体制支援
  - ・緊急救命(全身管理)チーム支援

### 救急部

1. 救急部は、救急機能や災害対応の専門部門として、救急外来診療、院内救急対応、災害対応の中心として活動する
2. 当院が平成21年1月1日付で、日本救急医学会から救急科専門医指定施設に認定されたことを受けて、救急医療体制と災害対応体制について、地域医療に貢献すべく院内各部署や、院外緒機関の連携維持を強化する。同時に救急科専門医後期研修・研究プログラムの作成に着手する。
3. 救急部運営委員会・「救急ワーキンググループ」(QW)による救急部運営体制の維持
4. 救急外来診療
  - ・癌救急(Oncology Emergency)の実行・研修・研究活動の充実
  - ・「がん診療連携拠点病院」の救急部門としての救急業務の実施
  - ・救急科専門医指定施設・第二次救急医療機関・消防庁救急相談医派遣医療機関・救命士再教育医療機関としての救急医療・研修・研究体制の維持
  - ・地域救急医療システムでの協力連携体制の維持拡充  
とりわけ、「開放病床」における急性期診療体制の確立
  - ・東京都による「島しょ救急患者搬送(ヘリ搬送)業務」協力体制整備
  - ・一般市民を対象とした応急処置や救急蘇生法教育
  - ・医師・医療関係者を対象とした JATEC, ICLS 等へのインストラクター活動の維持充実
5. 院内救急対応
  - ・院内救急体制の維持整備
  - ・スタットコール体制維持整備
  - ・緊急救命(全身管理)チーム体制の機能整備
  - ・医療従事者を対象とした救急対応法研修
  - ・全身管理知識の普及活動の維持
6. 災害対応
  - ・自衛消防との院内災害対応連携。
  - ・「地域災害拠点病院」としての機能充実と人員整備
  - ・「医療救護班」の維持、充実
  - ・江東区、東京都、首都圏災害体制参画:とりわけ江東区医師会防災部会における地域防災活動への参画活動
  - ・院内災害対応訓練、広域災害想定訓練
  - ・災害対応ワークショップ、セミナー開催

## 【 臨床検査部門 】

病 理 部

1. 形態と遺伝子情報の総合の上立つ病理診断学の研究と実践
2. 縮小手術の適応条件に関する研究と診断への応用—特に乳癌、消化管癌、肺癌について
3. 迅速診断への分子病理診断の応用—特に OSNA 法の乳癌、大腸癌、肺癌への適用
4. 融合遺伝子を有する癌の病理診断学的研究—特に ALK 融合遺伝子肺癌について
5. 癌の悪性度と治療感受性指標の研究—特に tyrosine kinase と PI3K, および神経内分泌性に注目して
6. 抗癌剤の効果判定に関する病理学的研究
7. 癌好発状態の研究—特に前癌状態、癌好発症候群 (HNPCC、Werner 症候群等) について
8. 臨床各科の conference への病理学的寄与
9. Ganken Tissue Bank の運営と検体の諸研究への提供
10. 医療ミスを根絶させるための、作業・診断マニュアルの完成と実践

#### 臨床検査第 I 部

1. 検体検査業務
  - 1) 報告時間短縮のための中間検体処理作業改善の検討
  - 2) 省力化、迅速化の中での高精度保持システムのさらなる確立
  - 3) 完全 24 時間データ提供検査体制下での精度管理保持のための検討
  - 4) 各部門間のローテーションによる多能検査技師育成の実施
2. 採血業務
  - 1) 採血技術向上を常に目指す採血担当技師勤務体制の確立
  - 2) 採血管準備システムによる患者取違え完全防止策の検討
  - 3) 採血患者に心理負担を与えない接遇法の検討
3. チーム医療における臨床検査部の役割
  - 1) パニック値報告システムの運用と臨床貢献の継続
  - 2) パニック値報告システムの運用と臨床貢献の継続
  - 3) ベストケアプロジェクト症例の病因解析の検討
  - 4) NST への積極的参加と NST で実施した検査値の解析検討
  - 5) ICT への積極的参加と細菌検査結果の解析検討
4. 経済性を考えた検査オーダーの適正化（特にまるめ項目）推進に関する検討

#### 臨床検査第 II 部

1. 安全な輸血を安定供給するための検討

2. 輸血による副作用の原因・追跡調査・予防法の検討、改善
3. 輸血患者遡及調査の実施、改善
4. 廃棄血液「ゼロ」に向けての取り組み
5. 輸血療法適正化の推進
6. 輸血管理料算定基準達成への取り組み
7. 特定生物由来製品の一元管理に向けての検討
8. アルブミンの使用制限による管理料の取得

### 臨床検査第Ⅲ部

1. 遺伝性癌の生殖細胞変異解析  
APC, BRCA1, BRCA2, RET, MLH1, MSH2, p53 など
2. 大腸癌のリンパ節転移診断
3. 膵液などに含まれる細胞の DNA を用いて膵臓癌の補助診断
4. 固形癌(大腸癌、乳癌など)を中心とした抗癌剤感受性予測診断の確立
5. Microsatellite Instability(MSI)の解析
6. (遺伝性非腺腫性大腸癌(HNPCC)や多重癌のリスク診断)
7. 子宮頸部前癌病変の HPV-DNA 診断
8. 癌研ゲノムプロジェクトにおける臨床材料、個人情報などの収集・保管の拠点
9. 胸腔洗浄液の胸腔内微小転移検出の臨床研究

### 健診センター

1. 肺癌の診断精度の向上 (ヘリカル CT による早期癌の診断)
2. 早期食道癌の診断精度向上 (表在癌の発見)
3. 早期胃癌の診断精度向上 (微小・表在癌の発見)
4. 大腸癌の診断精度の向上
5. 乳腺の診断精度向上
6. 子宮頸癌の診断精度向上 (パピローマウイルス検査)
7. PET による腫瘍スクリーニング
8. 腫瘍マーカーp53 の臨床的意義の検討

### 新薬開発臨床センター

1. 新規薬剤の治験の推進、とくに第一相
2. CRC 業務の推進と増員、外部 CRC の受け入れ
3. 開発中薬剤の情報収集とコンサルティング

4. SDV を始めとする調査業務のスピード化
5. 海外と共同治験の実施
6. 治験担当薬剤師、検査技師の確保

## 薬 剤 部

1. 調剤業務
  - 1) 正確な調剤
  - 2) 正確な抗癌剤および一般注射薬の混合調製
2. 管理業務
  - 1) 麻薬・向精神薬、毒薬等特定薬品の管理
  - 2) 病院経営を意識した医薬品の適正管理
  - 3) 癌化学療法レジメンの管理
  - 4) 医薬品情報の管理
3. 病棟業務
  - 1) 入院患者に対する薬学的ケアの拡充
  - 2) 外来化学療法室における薬学的ケアの実践
4. 教育・研究業務
  - 1) がん専門薬剤師の育成
  - 2) がん薬物治療の専門性を高める教育と研修
  - 3) がん専門薬剤師研修、実務実習研修生の受け入れ
  - 4) 患者服薬指導書の充実

## 看 護 部

- ・基本方針
  1. 患者さんを全人的にとらえ、個別的・継続的な看護を実践します
  2. 患者さんの人権を尊重し、安全且つ質の高い看護を実践します
  3. 多職種チームの一員として責任を果たします
  4. 品格があり、自律した行動がとれる人間性豊かな看護職員を目指します
- ・活動目標

看護師一人ひとりが

  1. 役割を自覚し、患者・家族を支援する
  2. 育て、支え合う心を尊重する

## 栄 養 科

1. 患者サービスの向上について
  - ・患者サービスの更なる向上を目指す
    - 1) 献立の内容・質の更なる改善
    - 2) がん専門病院として相応しい食種の拡充
2. 入院・外来栄養指導の更なる拡充
  - 1) 下部消化管の栄養指導の実施
  - 2) 糖尿病外来の栄養指導の実施
3. 衛生管理の更なる徹底
4. 栄養業務の更なる改善・向上の検討
  - 1) 栄養士・調理師の技術・意識の改革
  - 2) 学会・研修会への積極的な参加
5. コストの削減の徹底

## 【 医療支援部門 】

### 医療支援センター

- ・がん診療連携拠点病院に求められている社会的責任(CSR)を果たすために、専門チームによる連携支援体制を構築し、患者さん・ご家族のみならず院内・院外全ての関係者へ具体的支援を実施する

### QI室(クオリティーイムプロブメント)

1. 臓器別がん診療ガイドラインの改訂
2. 臓器別がん看護ガイドラインの策定
3. ご意見箱に対する対応・改善
4. 患者満足度調査・研究
5. 職員満足度調査・研究
6. 接遇改善に向けた計画立案
7. BSCとの連携による調査分析
8. クオリティインデイクターの作成
9. 慰霊祭実施に伴うQI向上政策の策定
10. 慰霊祭の今後のあり方の検討